



つばさ

多摩市立聖ヶ丘小学校
特別支援教室 つばさ
令和6年5月15日
つばさだより 第2号

進行形では見えにくい子供たちの「成長」

爽やかな風が吹き、新緑の緑がさらに眩しさを増してきました。変化、変化の学校生活も一ヶ月を過ぎ、個々に生活リズムを作れたり、まだなんとなく「ざわざわ」した感じの中にいたりそれぞれの学校生活が進んでいます。今年度のつばさの指導が始まりました。「今日の何時間目だっけ?」「ぼく、この時間で合ってますか?」等、確認をとりにくる姿に学期始めの勢いを感じます。個別指導では「新しいクラス」「新しい担任の先生との出会い」「自分の調子」などをテーマに会話でのやりとりを進めています。また学年が上がると、それぞれ自分の「今」について成長できたことが話題に上がります。「宿題は少しはやってるかな。」「体育の着替えも遅れていないよ。」「担任の先生は優しい!だけど、怒ると怖い。」「一応教科書はだしてるかな。」等々です。

新学期が始まってのピリッとした緊張感もあると思いますが、概ね前向きな発言を聞くことができました。この時期の子供たちの姿を昨年度末の姿と重ねると、そこには確実に「成長」を感じることができます。個人差はもちろんありますが、以前できていなかったことや苦手としていたことが、少しずつでも前進していていることは確かだと思えます。それは一年という時間が過ぎる中で前後を比較して見えてくる、意識できてくるものなのかもしれません。そこで思うことは、「どうしてできないんだろう?」と思っていたことは、その当時の時間軸ではなかなか見えないということです。すぐに結果は見えてこない、ハラハラ・ドキドキ、不安・心配にもなりますが、一定の時間が過ぎて見て初めて見える「成長」です。今年もそんな見えない「成長」を信じて指導が始まっていきます。

(*文面の内容は巡回校のエピソードも含んでいます)



個別指導では…

まず、子供たちとの信頼関係や安心感を作っていきます。「苦手やできないことを何とかする」にフォーカスするのではなく、「どのようなやり方があるのか」「適切に状況を理解して、そのあとできることは何か」、子供たちが自分を整理して考えていきかけを作っていければと思います。ご家庭からの情報が、指導にプラスになることがあります。何か共有できることがあれば、その都度情報をいただければ幸いです。

小集団指導では…

グループの関係の中で自分や相手を意識すること、気持ちや考えや感覚を共有しながら「自分」を理解していくことを目指していきます。みんなで行う「演習」の中には共有していくためのゲームがあったり運動があったりします。自分はどう感じているか、相手はどう捉えているか、どんな行動に気が付いて、必要に応じた「調整」とは何か、学年やグループの実態に応じながら進めていきます。